

地域再生計画

- 1 地域再生計画の名称
「水郷ひた」の復興～水と緑あふれる安らぎのまちづくり～
- 2 地域再生計画の作成主体の名称
日田市
- 3 地域再生計画の区域
日田市の全域
- 4 地域再生計画の目標

平成17年3月22日に前津江村、中津江村、上津江村、大山町、天瀬町との1市2町3村の市町村合併により人口75,970人（平成17年3月末）面積666.19km²の新しい日田市が誕生した。

新日田市は大分県西北部、北部九州のほぼ中央に位置し、盆地形態の旧日田市内と広大な山林原野を有する旧郡部で構成される。

日田市の中心部を流れる三隈川（筑後川の通称名）は、古くは林業により搬出される木材を本市から約75km 下流の大川まで運ぶ重要な交通網として、また鶺鴒いや屋形船に代表される風情あふれる風光明媚な自然環境を観光資源として、さらには農業や生活用水として様々な恩恵を市民にもたらしてきた。また、本市の豊富で良質な地下水を求めてサッポロビールや三和酒類、コクボ製氷などの水を原料とする企業が立地してきた。しかしながら、今日、河川の水質悪化や危険性、また道路交通網の発達などから、人々は川から離れ、川から距離をおいた生活を営むようになってしまった。

このような状況の中、民間団体による川と親しむイベントや行政による親水化事業の実施、さらには、住民と一体となり取り組んだ川の水量増加運動など、次第に川へ関心を持つ市民が増えてきている。

こうした状況をふまえ、九州を代表する一級河川・筑後川の上流域に位置する市として、水質保全への責任を改めて自覚するとともに、伝統的な環境共生都市、水と緑に恵まれた「水郷ひた」の復興を目指す。

日田市ではこれまでも、生活排水処理の推進のため昭和48年より旧日田市街地を中心に公共下水道整備事業及び地域下水施設整備事業を開始し（昭和62年より）、昭和62年には旧市街地周辺部で合併浄化槽設置整備事業、平成

6年より農業集落排水事業を開始した。また、旧大山町では平成10年より特定環境保全公共下水道整備事業、その他の旧町村では平成3年より合併浄化槽設置整備事業を実施しており、その結果、平成17年3月31日現在、日田市の汚水処理人口普及率は74.6%となっている。本交付金事業では平成21年度までに汚水処理人口普及率を78.0%に引き上げることを目標とし、さらなる河川水質の保全に努める。

さらに、貴重な資源である川に市民や観光客が親しみ、戯れられるよう、イベントの開催やエコミュージアムの設置などによりその環境と機会を創出するとともに、水辺の美化・整備を進めていく。また、森林の保水機能の向上を図るために水辺の森の保全活動や里山の雑木林の復元等、緑を育む活動も併せて行い、水が輝き、水と戯れ、緑あふれる安らぎのまちづくりを目指す。

(目標1) 汚水処理施設の整備の促進

(汚水処理人口普及率を74.6%から78.0%に向上させる。)

(目標2) 水と戯れ、緑を育む活動を推進する。

(主要イベントの交流人口25万人を27万人に増加させる。)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

新日田市は、主に商工業及び農林業振興地域(旧日田市)と農林業振興地域(旧日田郡)から構成されており、旧日田市にはすでに公共下水道及び農業集落排水施設、地域し尿処理施設が整備されている。

また、旧大山町では特定環境保全公共下水道整備事業が実施されている。今後、5年間の地域再生計画で既設集合処理区域を除く区域において浄化槽(個人設置型)を750基整備し、平成20年度から21年度にかけては公共下水道の早期供用開始が必要な区域の工事を行う予定である。

5-2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業 汚水処理施設整備交付金を活用する事業

整備箇所等は、別添の整備箇所を示した図面による。

【事業主体】

日田市

【施設の種類】

- ・ 公共下水道施設
- ・ 浄化槽（個人設置型）

【事業区域】

- ・ 公共下水道 日田市藤山地区
- ・ 浄化槽（個人設置型） 日田市全域（公共下水道整備区域、特定環境保全公共下水道整備区域、農業集落排水施設整備区域、地域し尿処理施設整備区域を除く）

【事業期間】

- ・ 公共下水道 平成20年度～平成21年度
- ・ 浄化槽（個人設置型） 平成17年度～平成21年度

【整備量】

- ・ 公共下水道
 - 計画人口 302人
 - 管渠 L=4,050m
 - 管径 75～200mm
- ・ 浄化槽（個人設置型）
 - 計画人口 2,200人
 - 5人槽 355基（各年度71基）
 - 7人槽 380基（各年度76基）
 - 10人槽 15基（各年度3基）

【事業費】

- ・ 公共下水道
 - 事業費 194,000千円
 - （うち、交付金 97,000千円）
 - 単独事業費 240,000千円
- ・ 浄化槽（個人設置型）
 - 事業費 289,635千円
 - （うち、交付金 96,545千円）

合計	事業費	483,635千円
	(うち、交付金)	193,545千円)
	単独事業費	240,000千円

5 - 3 その他の事業

・川のイベントの開催

本市最大の行事である川開き観光祭の更なる充実を図り、またリバーフェスタの開催やエコミュージアム構想の具体化により、観光客や交流人口の増大に努め、水と親しみ戯れる環境づくりを行う。

・森林の保水機能の向上

水の輝きを支える森林の回復と保全のための活動を市民団体と協働して行い、また身近な里山の雑木林の復元、除間伐の促進などによって緑を育む活動を推進し、安らぎのまちづくりを目指す。

6 計画期間

平成17年度～21年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

平成22年度当初に、日田市において汚水処理人口普及率を算出し、4に示す数値目標に対する達成状況で評価等を行う

また事業実施中に、各年度ごとに状況を確認し、目標達成が危ぶまれる時は市民への啓発を行い汚水処理人口普及率向上のための推進を図っていく。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし